

営農技術情報

一畑作(大豆③)一

令和2年 6月10日発行

上川農業改良普及センター名寄支所 TEL01654-2-4524
JA道北なよろ TEL01655-3-2521
JA道北なよろ営農センター TEL01654-3-4307

～害虫の発生に注意しましょう～

1 中耕・培土 ～着蕾期までに2～3回～

- ・ 1回目の中耕は、土壌処理除草剤の効果持続期間（3週間～1ヶ月）を考慮し、暖かい日に行いましょう
- ・ 2回目以降は、雑草の発生状況や降水量を考慮して行いましょう
- ・ 作物体が小さい時期は幅を広く、深さを浅く、作物体が大きくなったら幅を狭く、深さを深くし、作物体や根を傷つけないように注意しましょう
- ・ 着蕾以降は落花を誘因する恐れがあるため、着蕾期まで（開花始10日前まで、平年7/5頃）には最終の中耕を終えましょう

2 病虫害防除

(1) アブラムシ類

ジャガイモヒゲナガアブラムシは、ダイズわい化病を媒介します。

「クルーザーMAXX」、「クルーザーFS30」の効果持続期間は、約1ヶ月間です。は種1ヶ月後を目安に、防除を行いましょう。

【アブラムシ類の防除薬剤例】（令和2年度JA農作物施肥・病虫害・雑草防除ガイドより）

薬剤名	系統	使用倍率	使用時期	回数
エルサン乳剤	有機リン	1,000倍	収穫7日前	2
ゲットアウトWDG	ピレスロイド	3,000倍	収穫7日前	3

(2) 茎疫病

連作ほ場で発生しやすく、ほ場内の排水不良部分から発生・拡大することが多い病害です。

ほ場内で滞水することがないように、ほ場条件の良い今のうちに、明渠の整備や溝切りを行い、排水路を確保しておきましょう。

また、発生暦のあるほ場では早めに予防防除を行うとともに、連続した降雨が予想される場合は、降雨前の防除を行うようにしましょう。

【茎疫病の防除薬剤例】（令和2年度JA農作物施肥・病虫害・雑草防除ガイドより）

薬剤名	系統	効果	使用倍率	使用時期	回数
プロポーズ顆粒水和剤	酸アミド・他合成	予・治	1,000倍	収穫21日前	2
リドミルゴールドMZ	有機硫黄・酸アミド	予・治	500倍	収穫45日前	3

◎ 農薬は使用基準を守り、農薬飛散に注意しましょう ◎